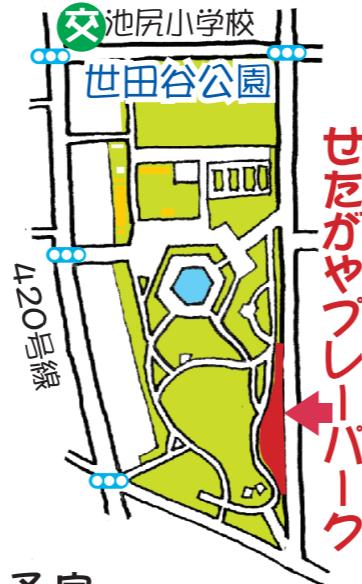


「プレーパーク」危行こう!

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、子どもたちが、やってみたいことにどんどん挑戦できる遊び場としてヨーロッパを中心実践されていた冒険遊び場をヒントに、1979年日本初の「プレーパーク」が羽根木公園内に誕生しました。

現在世田谷区には、世田谷公園内にある「世田谷プレーパーク」の他に「羽根木(羽根木公園内)」「駒沢はらっぱ(駒沢緑泉公園横)」「鳥山(北



行事予定

令和6年

- 毎月第1月曜日 池尻三丁目公園お花広場の手入れ
- 6月30日(日)前期 池尻・三宿クリーンDAY
- 7月10日(水)~11日(木) さぎ草展示会
- 7月11日(木) さぎ草花後の管理講習会
- 8月下旬 夏季レクリエーション
- 9月1日(日) 池尻小学校避難所運営訓練
- 10月5日(土) 三宿小学校避難所運営訓練
- 10月の木曜日(4回連続) 池尻・三宿健康教室
- 10月27日(日) がやがや村まつり
- 11月上旬 子ども服と本のリサイクル会
- 11月頃 池尻・三宿 音楽サロン 池尻・三宿地区キャラクター「みいけ」
- 11月上旬~12月中旬 ごみ減量・リサイクル啓発ポスター展
- 11月~12月頃 冬の花の寄せ植え講習会
- 11月30日(土) 後期 古着・古布回収
- 12月上旬 後期 池尻・三宿クリーンDAY
- 12月頃 多聞小学校避難所運営訓練



明日からと 決意で終わる ダイエット
あつたかく あつたかく

紫陽花と 桜咲く 光る眼(まなこ)と 桜の花と
さくにいるよ タケコ

太極拳好 桂(ひよどり)と 桂の花と 蜜の味
太極拳好

応募方法=池尻まちづくりセンター一階の川柳BOXに
ご投函下さい。用紙は自由です。(ペンネームでも可)

●「わんぱち」は、池尻まちづくりセンターで配布しています。また、区のホームページには、「わんぱち」をはじめとして、地区の情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

池尻まちづくりセンター 検索



広報部会員

池尻東親会	徳永 静	池尻4丁目町会	津村 和代
池尻西町会	落合ともこ	池尻団地自治会	野田 俊和
池尻南睦会	小野 克己	三宿自治会	小林 正典
池尻北自治会	山田 郁枝	三宿北町会	高久みどり



・・・池尻・三宿地区8町会・・・ わんぱち

令和6年6月18日発行

発行者 身近なまちづくり推進協議会広報部会
事務局 池尻まちづくりセンター
TEL 3413-1843
FAX 5486-7664

春の歩こう会

3月30日(土) 実施

昨日の春の嵐が嘘のような晴天の春の歩こう会です。ようやく桜の開花が始まり心はウキウキ。池尻まちづくりセンターから中目黒駅までの5.5kmです。呼びかけに参加者は30名。9時45分 3班に分かれて出発です。途中休息をとりながら散策、それぞれの公園は地形にあつた遊具、野球場、噴水があり、多くの子ども連れてにぎわっていました。今回のウォーキングコースには神社仏閣があり、気分は観光地めぐりでした。蛇崩川緑道沿いでは世田谷区の遊歩道は広く感じましたが、目黒区に入ると住宅地とビルの谷間になっているのか、円柱形の街灯が多くみられました。そのまま、まっすぐ進むと中目黒駅(終点)です。

目黒川の花見客などものすごい人出でした。この歩こう会を通じて新しい出会いを大切に成長していけたら幸いです。次回は参加してみませんか。

行程

池尻まちづくりセンター
こどものひろば公園
西澄寺
世田谷観音
駒繫公園(駒繫神社)
蛇崩川緑道(上四児童遊園)
中目黒駅



3月3日(日)に、青少年池尻地区委員会主催の『第41回子どももちつき大会』が開催されました。会場では、もちつき体験のできるコーナーや子どもへのおもちの配布の他、池尻・三宿・多聞小のPTAによるゲームコーナー、地域住民のサクマタカシによるマジックショー、池尻祭輿会による子どもおはやしコーナー等が行われました。その他にも、池尻地区ごみ減量・リサイクル推進委員会のコーナーでは、ごみ分別クイズやフードドライブが行われました。

当日は晴天に恵まれ、会場である池尻三丁目公園には、子どもや大人が大勢集まりました。もちつき大会開始直後には、もち引換券の配布に數十人の長い列ができ、おもちは約330名の子どもに配られました。このおもちは、地域の大入や高校生のボランティアが前日から仕込みを行い、作られたものです。どのコーナーも列ができ、一時は球技広場内の入場を制限するほどの大盛況でした。準備や当日の運営にご協力いただいた皆様、当日ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



世田谷観音

世田谷地域の昔話

かつて、上目黒の大橋の大山道と兵隊屋敷（嘗告）の崖との間に旧家があつて、その家の敷地内には「蛇池」とも「竜池」とも呼ばれた大きな池があり、そこには弁財天が祀られていきました。これにまつわる伝説に“美姫に化粧した大蛇”があります。

なお、世田谷区が編集した『ふるさと世田谷を語る』では、「池房の主のひっこし」として語られています。

追記1. この昔話に登場する美しい娘は、この池の主の蛇の化身だった

子供のいなかつた世田谷の長者夫婦が、井の頭弁財天に子供が授かるよう願いをかけたところ、首筋に三枚のウロコをもつたかわいい弁天様のような子を授かたが、16歳になつた娘に「実は、私は池の主の化粧です」と打ち明けられ、言い終わるや否や夫婦の目の前で井の頭池に身を投げた娘の姿は見る見るうちに白蛇に変つていった。

追記2. 「池房」の地名の起源と昔話の成立者

「池房」は、箱根の芦ノ湖の水が早川に落ちる付近を「湖房」というように、池の水の落ち口付近という意味の地名に相違ないのであるが、現在では池・沼といい得るもののは存在していないので、過去に池乃至沼があつての地名と考えざるを得ない。かつて存在したという池は大きく、ある時代までは下流の地帯一帯の灌漑用水池として利用されていたが、何らかの関係で干上がつてしまい、かつて池の恩恵を受けていた人々の嘆き、恵水希求の願望、池の主として祀んでいると信じられていた大蛇、当時の雨乞い祈願所としての井の頭池が結びついて、美姫に化粧した大蛇の伝説が成立した。

追記3. 弁財天の使いは蛇

弁財天は、サンスクリット語でサラスヴァティーといい、インドにあつた河を神格化し、古くから廿神として崇拜されていた。やがて日本で仏教に取り入れられて弁財天となり、水の神という性格が日本古来の水神信仰と結び付いて庶民のあいだに信仰が広まつていった。また、弁財天が湖沼や池などに棲む魔物を鎮めるとして、全国各地の

江戸時代、目黒川に架かる大橋の上流側に大きな屋敷があつて、屋敷内には大きな池がありました。池の端には弁天祠があり、弁天の使いの蛇（水神）が池の主として祀ることから、そこは“蛇池の弁天”と呼ばれていました。その後、何方の理由でそこが干上がりてしまい荒地に変つていきました。

そんなある日、一人の男が畠の仕事を終えて帰ろうとすると、美しい娘に声をかけられました。娘は、「江戸から来たのですが、訪ねてきました親戚の家

水辺に弁財天が祀られているが、弁財天の使いとなる蛇は、日本では古くから神聖な生き物とする考え方があり、家の守り神として尊重された。



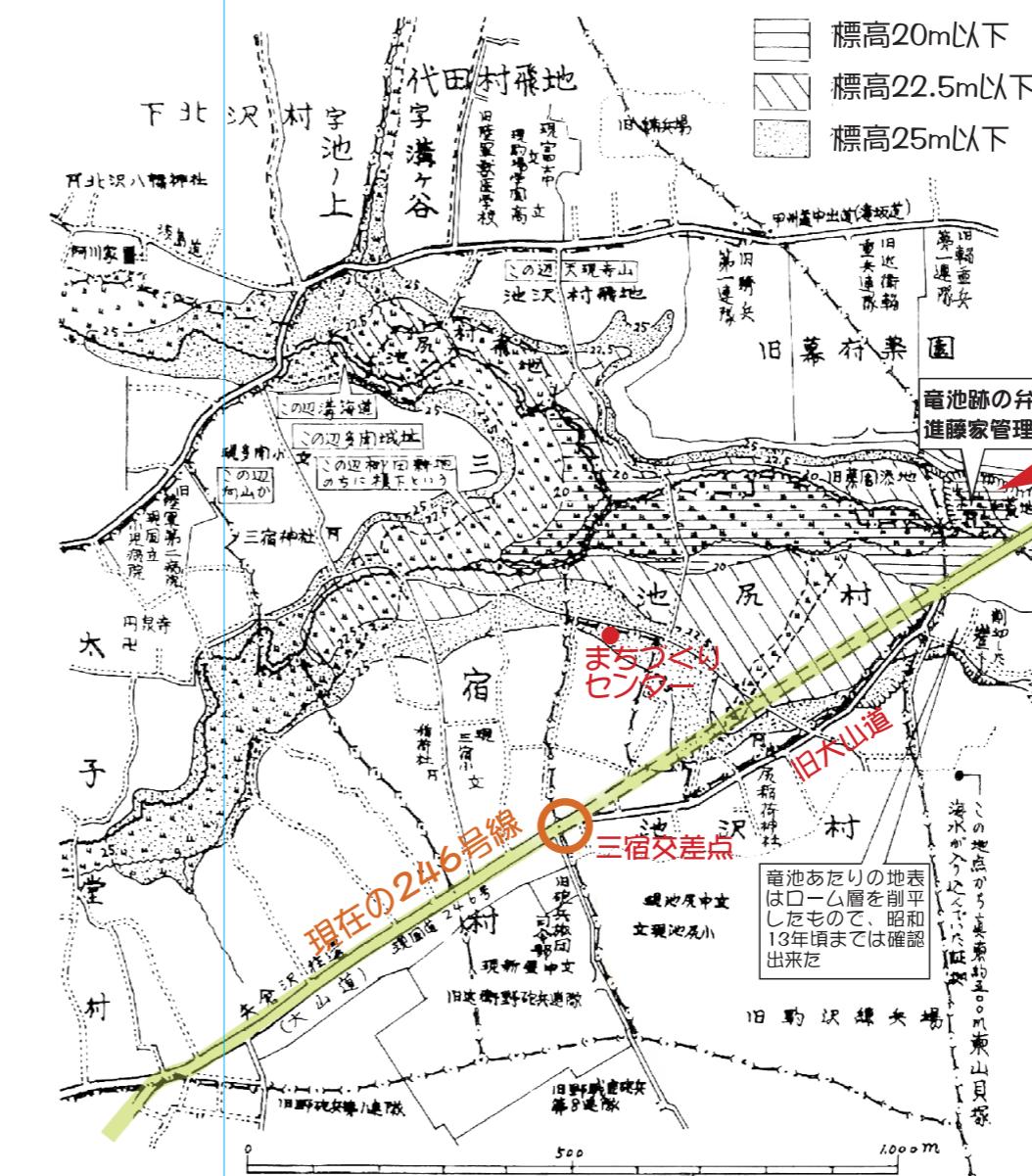
竜池跡の弁財天祠の様子

池房の主のひっこし

が見つかりません。大きな池のそばにあつたのですが。」と言います。それを聞いた男は「池と言つたらこの先の井の頭の池しかないが…」と言って、娘をそこまで案内します。井の頭の池が見える場所まで来ると娘は礼を言い、小判を三枚取り出すと「何があっても決して後ろをふり向かないで下さい」と言い残して、一人、池の方に歩いて行きました。

男が家に帰る途中、しばらくして空がぴかっと光りものすごい音が響きま

した。思わず後ろを振り返ると井の頭の池の方だけが明るくなつて何やら大きなものが動いて行くのが見えました。「うわあ、こりや一体何だ！！」男は叫び、ただもう夢中で家に逃げ帰り布団にくるまってガタガタ震えていました。朝になつてやつと落ち着きを取り戻した男は懐に手を入れ、もらつた三枚の小判をよく見ました。するとそれは大きな蛇のウロコだったのです。



弁財天祠(目黒区大橋2丁目)

△ 大橋上流にあつたとする沼地の想像図

『世田谷の地名』第72図より転載

引用資料

- 『ふるさと世田谷を語る(池房・三宿・太子堂・若林・三軒茶屋)』
(世田谷区生活文化部編集)
- 『世田谷区の地名(上)』三田 義春編著
(世田谷区教育委員会発行)
- 『井の頭池の白蛇伝説と宇賀神像』
(井の頭公園HP)
- 『仏像がよくわかる本』瓜生 中著
(PHP文庫)